

外気温感応型フィルムの効果確認試験



JAよいち

(有)カワイ



試験区①



試験区②



試験区③



試験区④

試験目的

外気温感応フィルムの効果確認試験

試験作物 及び品種

ミニトマト(CFココ)

試験資材 及び数量(規格)

調光(0.15mm×840cm×54m)

慣行資材

コーティング5+1(0.1mm×840cm×54m)

栽培方法

定植日

4月18日

収穫日

6月5日

【栽植密度】

株間：50cm

資材使用期間

2月下旬～10月下旬

試験区面積

270㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

厚みが増したので多少重くはなったが、極端に作業性が変わることはなかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育差は無いが、花落ちが少なく、色艶が良かったこともあり、秀品率が良かった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：ハウス内の日差しが柔らかい。

色付きや色艶が良い。

花落ちが少ない。

【問題点】：特に無し。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

現状特に問題無し。

(5)促成・抑制効果について

慣行資材と同様。

(6)保温効果について

現状特に問題無し。

(7)雑草・病害虫の発生について

例年に比べ試験区のうどんこ病の発生が少なかったと思う。

モニター感想

強い日差しによる花落ちも少なく、色のりも良かった。

割れが少なかったこともあり、慣行区と比較しても秀品率が高かった。

光が拡散されているからなのか、慣行区よりも根毛の張りが良く、木の頭頂部が黄色くなることもなかった。

また、夏場のハウス内での作業も刺す様な日差しを感じることも無かった。

慣行資材と比較すると高価でもあるものの、コスト以上のメリット感じることができた。

試験区は例年張りっぱなしにしているため、継続して強度面を確認していきたい。

JA担当者の感想(千葉購買課長)

近年、温暖化の影響により夏場の気温が異常に高く感じられる日が多くなっており、そのような中でハウス内の日射しを和らげ、温度を下げるといった遮光、遮熱資材の需要が高まってきているのではないかと思います。使用して頂いた組合員の評価も非常に高く、今後期待の持てる資材ではないかと思う。今後価格が下がればさらに普及が進むと思われる。

今後の使用について

継続して使用したい。

別のハウスの農POを更新する場合は、調光を購入したい。